

平成26年度「全国学力・学習状況調査」における

吉田 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成26年4月22日(火)に、3年生を対象として、「教科(国語・数学)に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査

| 主として「知識」に関する問題 【国語A・数学A】 | 主として「活用」に関する問題 【国語B・数学B】 |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none">・ 身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容・ 実生活において不可欠であり、常に活用できるようにになっていることが望ましい知識・技能 | <ul style="list-style-type: none">・ 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力・ 様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力 |

(2) 生徒質問紙調査

| 生徒質問紙調査 |
|-------------------------------|
| ○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査 |

吉田 中学校「平成26年度 全国学力・学習状況調査」の結果について

1. 教科に関する調査結果の概要

① 学力調査(国語A・B、数学A・B)結果

・本校の結果

| | |
|-----|-----------------|
| 国語A | 全国平均正答率を下回っている。 |
| 国語B | 全国平均正答率を下回っている。 |
| 数学A | 全国平均正答率を下回っている。 |
| 数学B | 全国平均正答率を下回っている。 |

(資料) 本市・全国の結果【平均正答率】

| | | 国語A | 国語B | 数学A | 数学B |
|--------|----|------|------|------|------|
| 平成24年度 | 本市 | 73.5 | 61.1 | 58.6 | 43.8 |
| | 全国 | 75.1 | 63.3 | 62.1 | 49.3 |
| 平成25年度 | 本市 | 74.7 | 65 | 60.3 | 38.2 |
| | 全国 | 76.4 | 67.4 | 63.7 | 41.5 |
| 平成26年度 | 本市 | 77.2 | 47.6 | 62.4 | 54.4 |
| | 全国 | 79.4 | 51 | 67.4 | 59.8 |

② 学力調査結果の分析

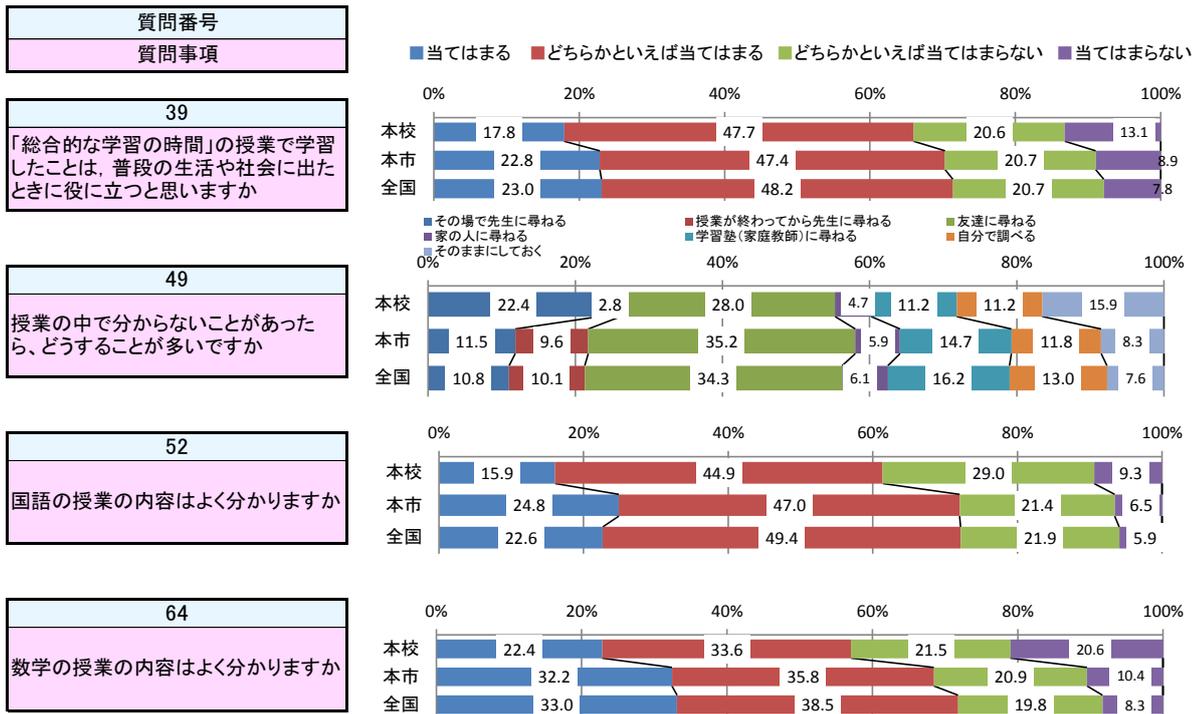
| | | |
|-----|-------------|--|
| 国語A | 全体的な傾向や特徴など | ・全国平均正答率を下回っていた。特に辞書を活用する問題や古典の問題で無解答率が高い。 |
| | よくできた問題 | 語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う問題では、全国平均正答率を上回っている問題もあった。 |
| | 努力が必要な問題 | 漢字を正しく書く問題が正答率が低い。 |

| | | |
|-----|-------------|--|
| 国語B | 全体的な傾向や特徴など | ・全国平均正答率を下回っていた。特に自分の考えを書いたり表現する問題が正答率が低い。 |
| | よくできた問題 | 複数の資料を比較して読み、要旨を捉える問題は全国平均正答率をやや下回っていた。 |
| | 努力が必要な問題 | 自分の考えをまとめ書いて表現する問題の正答率が低い。 |

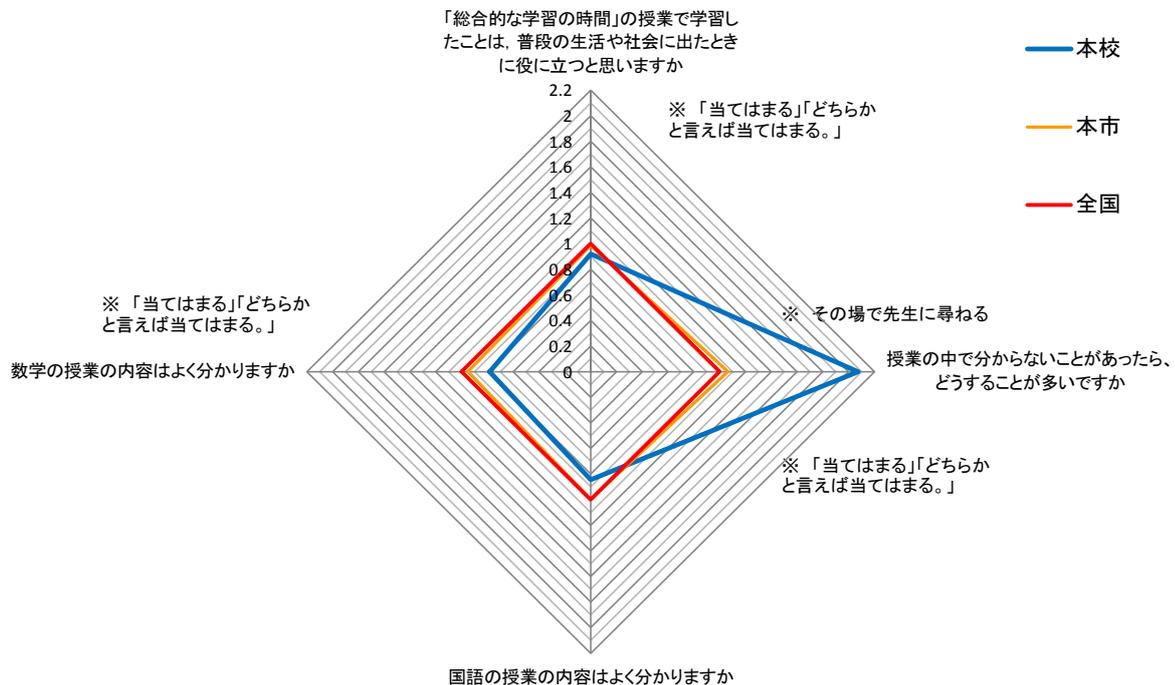
| | | |
|-----|-------------|---|
| 数学A | 全体的な傾向や特徴など | ・全国平均正答率を下回っていた。特に分数を含む一元一次方程式や連立方程式を解く問題が正答率が低い。 |
| | よくできた問題 | 指数を含む正の数と負の数の計算は、全国平均正答率を上回っていた。 |
| | 努力が必要な問題 | 分数を含む一元一次方程式や連立方程式を解く問題が正答率が低く、無解答率も高かった。 |

| | | |
|-----|-------------|--|
| 数学B | 全体的な傾向や特徴など | ・全国平均正答率を下回っていた。特に関数関係の問題が正答率が低く無解答率が高い。 |
| | よくできた問題 | 確率の意味を理解しているかを問う問題は正答率が高かった。 |
| | 努力が必要な問題 | 図形の証明に関する問題の正答率が低い。 |

③ 学校での学習状況に関する調査結果



④ 本校と本市の対全国比(全国を1とする)



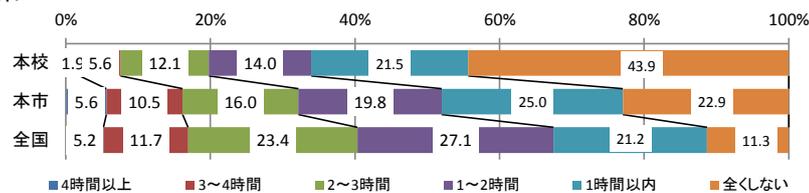
⑤ 学校における学習状況に関する調査結果の分析

授業の内容はわかりますかという問いに対して、国語の「当てはまる」、「どちらかといえば当てはまる」が本校60%に対して、全国70%、数学の「当てはまる」、「どちらかといえば当てはまる」が本校56%に対して、全国71.5%、というデータがあり、授業の中での理解度が全国に比べて約10%低い。分析の結果、全国に比べて、わからないかことをそのままにしていることが多く、それが原因であると考えられる

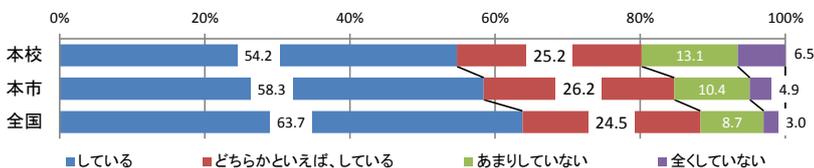
2. 家庭生活習慣等に関する調査結果の概要

① 家庭学習習慣に関する調査結果

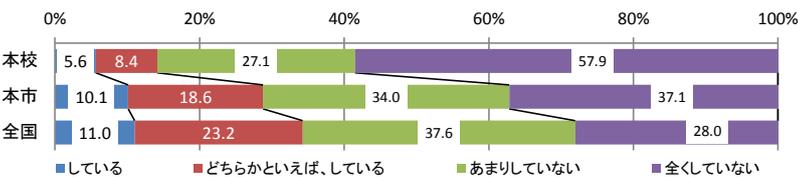
15
土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む)



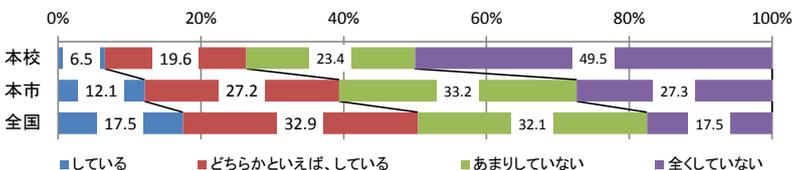
22
家で、学校の宿題をしていますか



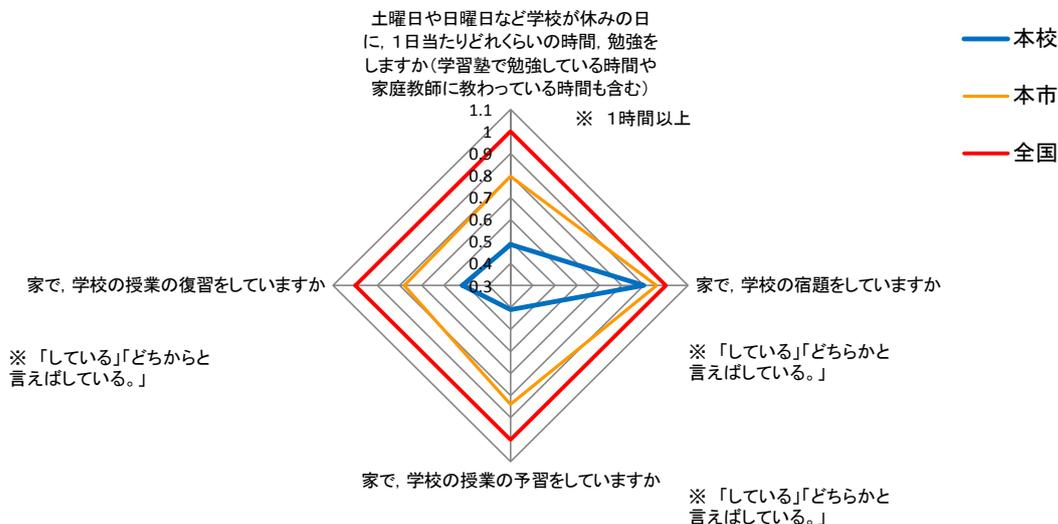
23
家で、学校の授業の予習をしていますか



24
家で、学校の授業の復習をしていますか



② 本校と本市の対全国比(全国を1とする)

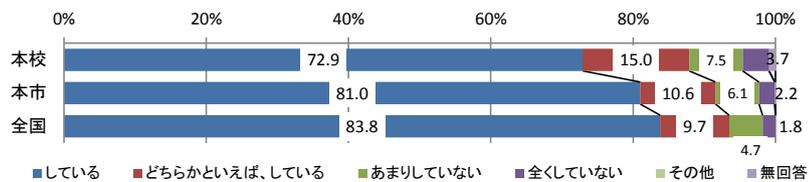


③ 家庭学習習慣に関する調査結果の分析

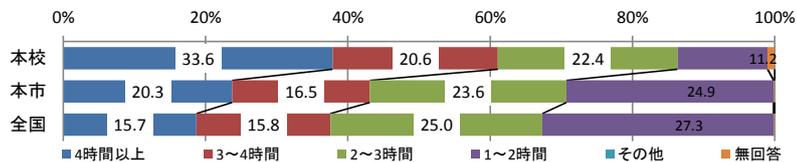
本校では、学校が休みの日に勉強を全くしない生徒が43.9%である。本市で22.9%、全国では11.3%に比べるとはるかに大きい数字である。家で学校の宿題をしていますかとの問いから、全国の割合とそこまでの違いはない。全く勉強をしない生徒の割合が大きいのは、予習や復習をしていない生徒が、本市や全国に比べると、本校では特に多いからだと考えられる。

④ 生活習慣等に関する調査結果

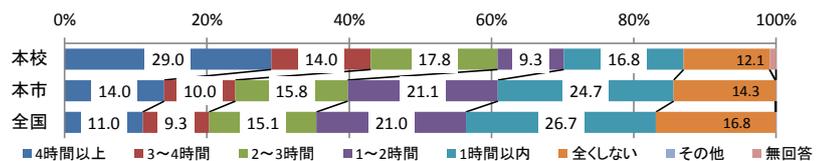
1
朝食を毎日食べていますか



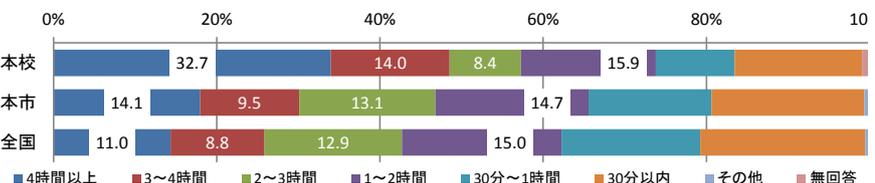
11
普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビやビデオ・DVDを見たり、聞いたりしますか(テレビゲームをする時間は除く)



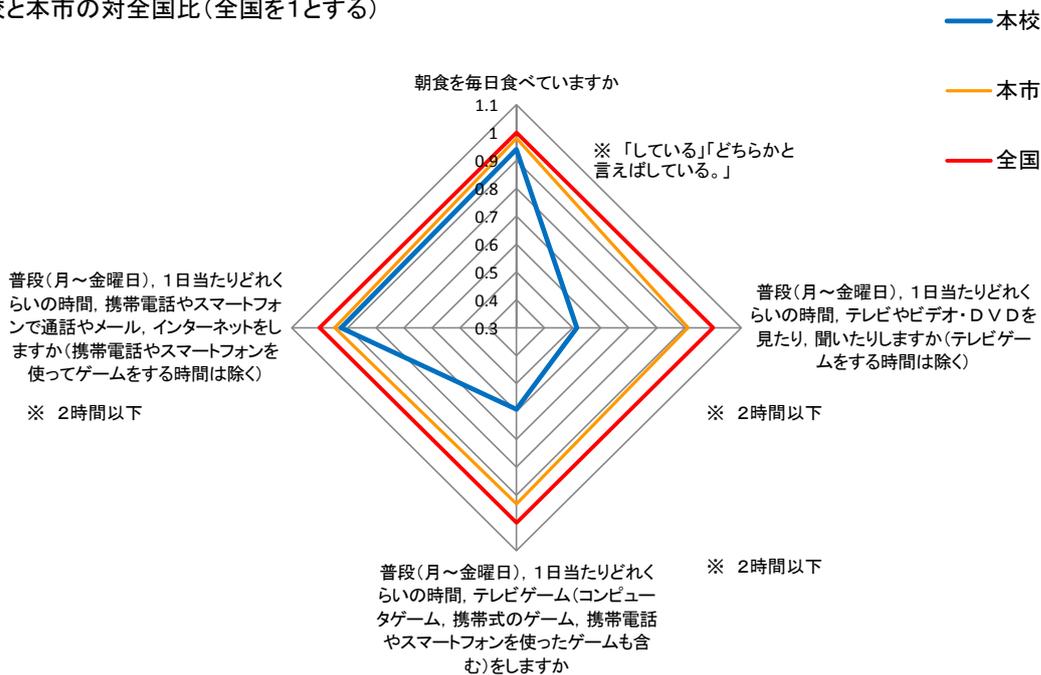
12
普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む)をしますか



13
普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか(携帯電話やスマートフォンを使ってゲームをする時間は除く)



⑤ 本校と本市の対全国比(全国を1とする)



⑥ 生活習慣等に関する調査結果から分析される傾向

※ 「◎」は現在取り組んでいること 「○」は今後取り組むこと 「・」は事例

朝食を食べている生徒は全国と比べると5%少なく、そんなに差はない。しかし、一日当たりの携帯電話やスマホなどでの通話やメール、インターネットなどを使用する割合が全国の3倍とはなはだしく多い。また、テレビゲームの使用も全国と比べると2.5倍、テレビやビデオDVDなどの視聴も全国の2倍と多い。家庭での学習時間よりも、ゲームや携帯電話などの使用時間が多いと思われる。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

※ 「◎」は現在取り組んでいること 「○」は今後取り組むこと 「・」は事例

- ◎ 学力向上のための特設時間の実施
 - ・朝自習テストの実施(週ごとに教科を決め、月～木に朝自習を、金に朝自習テストを行う。)
 - ・これテス(定期考査に出題される、これだけは確認テスト)の実施
 - ・定期考査前に学習委員作成による予想問題の実施
 - ・全校で漢字コンクールの実施
- ◎ 過去問題・アシストシート、活用する力を高めるワークの活用
 - ・単元末に過去問題・アシストシート、活用する力を高めるワーク等を位置付け、活用する。
 - ・定期考査前に試験範囲分を実施し、試験に出題する。
- 「書く」ことを習慣化
 - ・朝自習での取り組み(国語の漢字、英語の単語、社会や理科の語句などを繰り返し書く)
 - ・ノート点検(学習のめあてやまとめを書く)

② 家庭生活習慣等に関する取組

- ◎ 宿題のスタンダード化(時間・学年別・教科別内容)
 - ・週末課題、週末プリントの実施
 - ・冬休み、春休みの宿題に、過去問題・アシストシート・活用する力を高めるワークなどを活用する。
- ◎ 家庭学習の定着化
 - ・家庭学習時間の設定(生活ノートの活用)
 - ・定期考査前の計画作り(学習計画表の活用)
 - ・進路便り、学年通信などでの家庭学習の定着化の啓発
 - ・インターネットでの定期考査の情報やポイント(宿題)の啓発
- ◎ 学習規律の徹底、基礎学力の定着化
 - ・チャイム席の徹底
 - ・授業の開始時に振り返りテストや基礎確認テストを行うことで基礎学力の向上へつながる。
また、静かにテストに臨むことで落ち着いた雰囲気での授業を始めることができる。